

# 自地域の取組の総括と今後の着実な展開に向けて ～今の時期にやるべきこと・できること～



認知症介護研究・研修東京センター  
研究部長 永田 久美子

# 今、どこまで来て、どこに行くのか

～2000

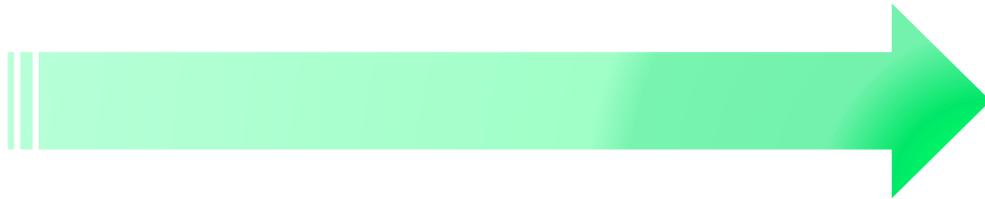
2010

2015

2020

2025

2030～



国施策の動向を踏まえつつ

自分の自治体のこれからは・・・

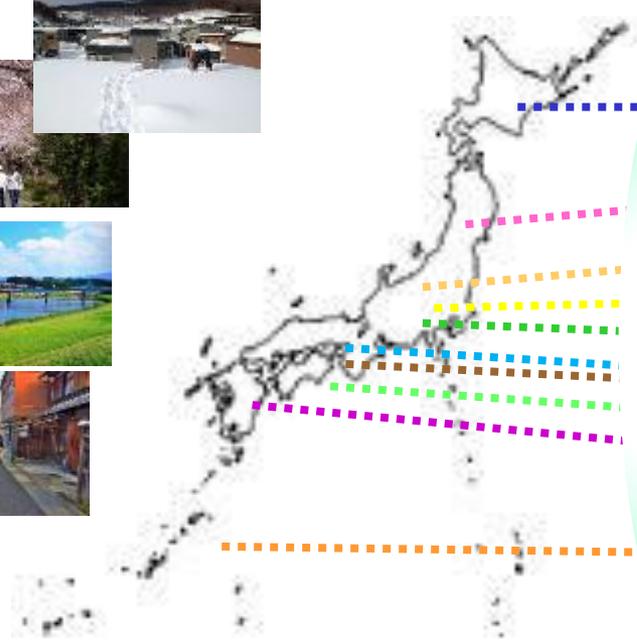
2019年は認知症施策の大きな節目。

- \* 自地域なりの未来に向けて  
より広い視界とつながりによる  
自地域ならではの施策の展開へ。

# 今、やるべきこと・できることは何か

## 全国各地の取組みをヒントに

試行錯誤



着実な取組には  
共通したポイントがある

わがまちならではの  
ポイントを参考に  
一歩一歩を

# 今の時期を活かして、やるべきこと・できることは ～これまでの総括と次年度以降のジャンプ台作り～

1. 最前線の人をねぎらい、生まれている  
変化と課題、声を集約

2. 今後、注力すべきことの検討・合意形成  
\*本人視点で、焦点化

3. 脱領域でつながる、つなげる、力を活かす  
\*「つなぎ手」〔推進役〕を重視、活躍できる環境を

4. 伝わるよう、行き届くように発信  
\*見える化・見せる化 & 人から人へ

5. 希望の結集軸を創る・強める

年度末の  
様々なシーンで

・個々の取組み

・話し合い  
・準備、調整  
・会議、委員会

・報告会  
・報告(書)作成

・引継ぎ

・交流、つきあい

その他

平成31年度以降の  
実質的な展開へ

# 1. 最前線の人をねぎらい、生まれている変化と課題、声を集約

今年度、自地域の中で多くの人たちが、(見えにくい) 努力をし、  
様々な取組みの試行錯誤が積み上げてきている  
最前線では、具体的な変化(成果)、課題、気づきが生まれている。  
→努力をねぎらいつつ、丁寧にキャッチを。

事業を進めることに目が行き  
撒いてきた種がどうなったか、  
フォローが不十分では...



よくがんばった  
よな～。

あの時、本当に  
助かった～。



実はあの後、  
こんなうれしい  
ことが・・・

# あらゆる機会、接点を活かして



埋もれている宝が沢山。  
今の時期を逃すと、  
聞けなくなる。

- 取組んだ人たちの努力にしっかりと光をあてよう。
- 今年度一年、その人が、どう取組み、何が起きたか（生み出されたか）、どんな気づきがあるか、よく話を聞いてみよう。できるだけ具体的に知ろう。



本人、家族と



担当者会議で  
地域ケア会議で



多職種での事例検討会や  
初期集中支援チームの  
チーム員会議等で



認知症ケアパスや  
認知症カフェの  
検討会で



定例の集まり、勉強会等で  
・民生・児童委員  
・介護支援専門員  
・介護事業者  
・医療関係者 等



キャラバンメイトの  
集まりでそれぞれ確認。  
そして、サポーターの  
その後の様子についても。



多職種の多資源の  
研修会 等で



計画策定の会議で

## 2. 今後、注力すべきことの検討・合意形成

＊本人視点で焦点化

いろいろやったし、  
数も増えたが・・・。  
実質の成果は？



地元の本人たちからみると  
どうなんだろう。

やるが多すぎる。  
みんな疲弊している。  
注力すべきことの  
焦点化が必要。

本人に本当に役立っているのか  
本人たちからみると、どこに  
力をいれることが、無理・無駄の  
ない取組になるのか

本人の声・視点をもとに、暮らしや  
地域、事業を見つめなおしてみる・・・

＊最前線の人の気づきを活かして討議を



# 本人ミーティング：今ある場を活かして、 本人が仲間と共に、思いや本音を語り合える機会を年度末こそ

## 本人ミーティングでの本人の声

- 同じような体験をしている人と話せてうれしかった。自分もいろいろ言えて、元気が出た。
- 自分たちが言わないと、わかってもらえない。自分たちが話すことが、まちをよくすることに役立つんだと聞いて、胸がすく思いがした。
- 仲間が欲しい。認知症の人同士で話し合える場所がもっと近くにほしい。
- 診断後すぐ、先生(医師)がこういう場につないでほしい。
- 家族がいろいろしてくれるのはありがたいが、心配しすぎ。
- できることを奪わないでほしい。失敗しても怒らないで。
- (医療や介護の人は)家族と話している。自分に話してほしい。
- 家族に頼らないで誰かがいてくれて、出かけられるように。
- 自分が自分でいられる場がほしい。
- 自分のやりたいことがいろいろある。今のデイサービスでなく、もっと自由な場があるといい。
- 自宅で暮らせなくなった時)家のように自由に暮らせて、やさしく助けてくれる人いる場所を。
- 認知症施策を作る時に、自分たちをいれたら変わるのではないか。本人の声を行政に。
- 「私、認知症です」と言える社会に。

## 同席・同行した人の声

- 話せるか心配だったが、自分から話していた。驚いた。(家族)
- 帰り道の(本人の)足取りが軽く、とても嬉しそうで、私も嬉しくなった。(家族)
- 知らないことを楽しそうに話しておられた。もっと新鮮きかなくなければ。(介護職)
- 普段と生き活き差が全然違った。他の職員にも参加してもらい一緒に変えていきたい(病棟看護師)。
- こうした場があれば、大事なこと、やるべきことが具体的にわかる！(地域包括支援センター)
- やってみたらうちの地域でもできた。自分の方が元気と勇気もらった。続けていきたい。(行政事務職)



地域食堂で(北見市)  
主催：介護・医療の地域ネットワーク



駅近の交流スペースで(仙台市)  
主催：、地域の多職種の自主組織



小規模多機能事業所で(上田市)  
主催：介護事業所



認知症カフェで(国立市)  
主催：行政、地域密着型サービス、医療機関



町役場で(綾川町)  
主催：地域包括支援センター



介護施設交流スペース(大牟田市)  
主催：多職種ネット

# 3. 脱領域でつながる、つなげる、力を活かす

## \*「つなぎ手」「推進役」を重視、チームで活躍できる環境を

認知症施策・事業は  
広範、多岐に渡る

一部の人たち、  
いつものメンバーでは  
限界。  
無理が生じて、消耗。  
長続きしない。

本人からみて  
身近な人、頼りに  
なるはずの人同士が  
つながっていない。

★地域の人と専門職  
とが繋がると  
威力が大きい



地域の中には、  
活躍するチャンスを  
待っている人たちがいる。

わが地域全体を  
見つめ直す。  
・活動の担い手は  
・つなぎ役、推進役  
になる人は…



# 参考 「地域にいる人」を活かす・つなげる・活動しやすい環境づくりを

- 地域のふだんの支え手の拡充を  
・あらゆる職種の人たちが、  
かけがいのない支え手。\*夜も



- \* 地域に出向いて、ふだんの取組、小さな成果、工夫、エピソードなどを具体的に知る。地域で「アクションする人」とつながる。 \*推進員の役割
- \* 同じエリアで活躍している地域の人と専門職が出会う機会を作る。一緒にできることを話し合う。  
⇒ アイディアを年度を超えて継続的に実行に移していくための集まり、活動ができる環境をつくる \*行政の役割  
例:アクションミーティングの事業化

- ★推進人材・チームの形成、後押しを経年的に地域人材を育て、つなぎ、牽引していくためのチーム形成が重要

- \* 「認知症になっても暮らしやすい町に」と真剣に考えている人たちを中心に。
- \* 定期的に会う機会をつくり、企画や実践、改善のサイクルを主体的・継続的に進めていく機能の保証・バックアップを。

★対話の積み重ね、信頼関係

- ★地域の特徴を活かした人材・チーム作りを



- \* 多業種・多職種の推進チーム
- \* 専門職 & 住民の推進チーム

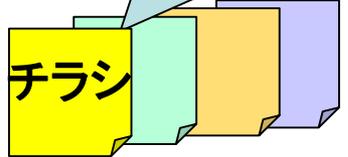
★年度末は、活躍する人材同士が出会い、チームが生まれる好機

# 4. 伝わるよう、行き届くように発信 \*見える化・見せる化&人から人へ

たくさんの事業、役立つサービスや情報がたくさんある

チラシや冊子等、色々苦労して作っているけど・・・マンネリ、みにくい、魅力ない・・・

・伝えたいことが伝わっている？  
・本当に必要な人に行き届いている？



伝えたい人の視点にたって、内容や発信の仕方・届け方を見直し、もう一工夫しよう

職場内や地域にいる広報・発信が得意な人の力を借りよう

★地元のメディア関係者ともつながろう



# 発信を効果的に

- **多くの人が目にする物を一工夫**
- **地元の人々の姿と声を丁寧にとらえ**  
ビジュアルに発信。  
⇒自分ごととして関心を喚起
- **「配布」プラス**  
人から人へ手渡しを勧める。
- **話しあうきっかけとして活かす。**

- **市民がふだん通る場所を活かす**  
チラシや情報を、魅力的にディスプレイ



- 図書館
  - スーパー
  - 薬局
  - 金融機関
  - 駅
  - 理美容店 等
- 普段目につく場に

- **地元メディアとともに**
  - 情報提供を細目に
  - 地域の好事例を
- 前向きな記事が次々  
→広報効果、抜群！



- **取組み後こそ、情報発信を丁寧に**  
参加しなかった人にも取組みの実際や手ごたえ、目指したいことをビジュアルに伝え、関心・賛同者、つながりを増やす。



広報誌を活かす  
\*住民の心に響く広報を  
和歌山県広川町



模擬訓練の報告チラシ  
兵庫県加東市



- 認知症でもあきらめない希望があるまち
- こんなにもたくさんの仲間がいる

ミュージックビデオを職員が作成  
大分県由布市

# 5. 希望の結集軸を創る・強める

一生懸命やっているが忙しくて、余裕がない。地域でうまくつなげられず、バラバラの状態であらゆる奮闘。

誰のために、何のために取り組んでいるのか、めざすことや目的を見失いがち。

やればやるほど、課題山積。問題点ばかりに目が行き、暗く、ピリピリ、萎縮しがちあきらめたり、絶望的にも。

力まず、息長く。どんな時にも希望を唱えて揺らがないでいる存在が認知症地域支援の体制構築にはとても重要

こうなるといいなあ。

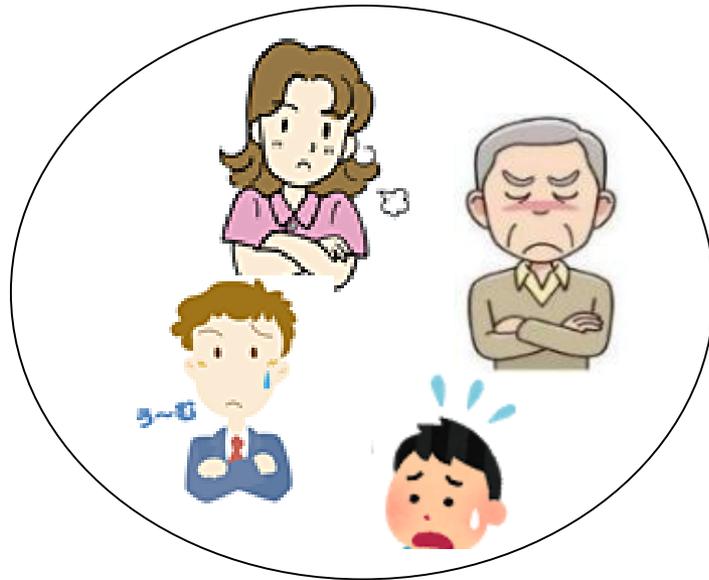
事務職が

大丈夫。いっしょに進もう。

専門職が

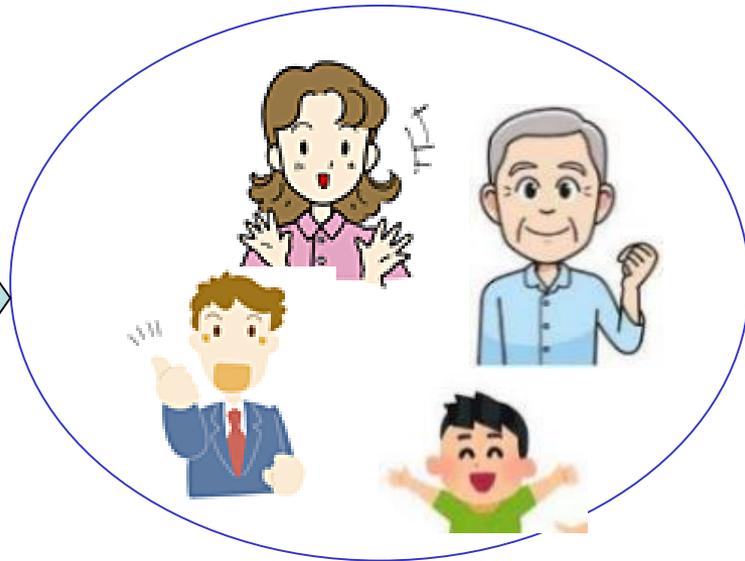


# 行政・支援専門職：絶望の悪循環の連鎖を断ち切る大事な存在。



## **絶望の悪循環**

- ダメなことばかりみる。
- 暗く、楽しみなく、ピリピリ
- ⇒お互い消耗、仲たがい
- ⇒状態悪化、力を出せない
- ⇒みんなが後ろ向きに
- ⇒力、成果がでない



## **希望の良循環**

- できることをみつける。
- 明るく、楽しく、力を抜いて
- ⇒お互いを活かす、仲良く
- ⇒状態安定、力が伸びる
- ⇒みんなが前向きに
- ⇒地域全体の力、成果があがる

**困った、大変・・・という時こそ、あなたが（小さな）希望を**

# 認知症は長い旅路:あきらめないで、より良い日々を

## 「希望」が、つながりと理解・支援を豊かにしていく鍵

自分らしい暮らし

生活の支障が増える

全身状態低下

終末

本人の状態

絶望→

つながり・理解・支援不足

→「障害」が増幅されている  
状態の低下が早

→本人・家族が  
二重・三重のダメージを  
受けて苦闘  
・地域住民、医療・介護  
必要以上の負担増

サポート医、認知症初期集中支援チーム  
認知症地域支援推進員、認知症介護指導者

かかりつけ医・専門医  
保健・行政サービス

高齢者総合相談センター  
(地域包括支援センター)

在宅サービス

☆介護支援専門員

訪問介護・訪問看護  
デイサービス・デイケア  
ショートステイ、他  
病院

小規模多機能  
グループホーム

施設

家族や親せき  
職場の人々  
地域の人々、子供達  
町内会、友人  
民生委員さん  
店、交通機関他

出会い  
つながりの  
場

いつでも・どこでも、大切な生活仲間

どの段階でも  
あきらめないで  
より良い状態になるように

2本の線の差：作られた障害

希望

→つながり・理解・支援が

本人、家族  
周囲の人々が  
互いに築

悪くなってから  
待ち受ける支援から  
地域に出向いて  
専門性を活かして  
住民とともに

つながって力を合わせて

# ★希望を失わず、力をあわせよう！

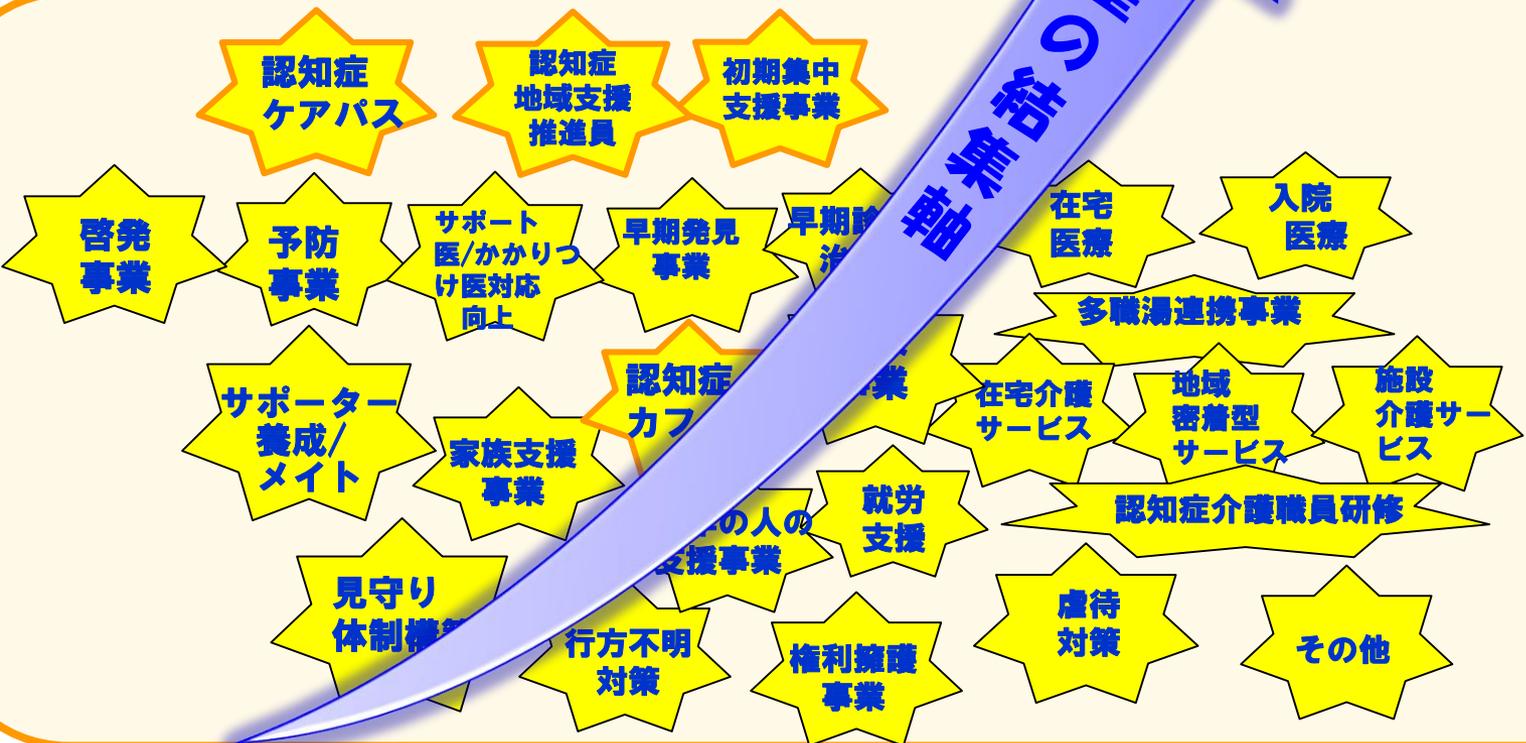


行政担当者、関係者が、  
自分ごととして、希望を素朴に語ると  
住民、支援関係者、そして  
本人、家族が奮起する。  
迷わずに、同じ方向を向いて、  
動き出す。⇒連携・協働の鍵

本人

地域

希望の鍵



# 参考 年度末は、希望の結集軸を創るチャンス！

## 認知症になってからも、よりよく生きられるまちを、いっしょにつくろう！

行政関係者(事務職、技術職)が、希望を、あらゆる機会に、様々な人に語りかける

\*本人と



認知症サポーター養成講座やメイトの集まりで



サロンやカフェで



委員会や様々な検討会、話し合いの機会に



子どもたちに向けて



企業に向けて



医療・介護・支援の  
関係者に向けて



報告会で

## 行政関係者の方向づけ(姿勢・ことば)の威力は大きい。

\*地域の多様な人たちが、あきらめず、やる気と力をひとつに。

# どの市区町村にも 地域の力は必ずある！



チームやはば

**そして、何よりも  
人は認知症になっても、  
自分らしく生ききっていく力がある！**



**地域を舞台に  
一人ひとりがよりよく暮らし続けられるための  
つながりと支え合いを、一歩一歩、拡充を。**

**今年度末を活かして、来年度以降の  
わが地域ならではの取組を、持続・発展させていこう。**

# 参考：地域における認知症高齢者の見守り体制の構築

## 「見守り・SOS体制づくり基本パッケージ・ガイド」

先行地域の取組事例を交えながら、見守り体制を構築するための指針を自治体向けに作成

地域の取組全体を関係者で見直し、今後の焦点(重点課題)や取組の改善・連動を生み出していくための参考資料として  
**DCネットより、ダウンロード可能。**

### 見守り・SOS体制づくり 基本パッケージ・ガイド

認知症の人等が行方不明にならずに外出を続けられるための  
見守り・SOS体制づくりの一步一步



社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター

#### 目次

##### I. 見守り・SOS体制づくり基本パッケージの概要と活かし方

1. 基本パッケージ・ガイドのねらい.....1  
参考① 認知症高齢者の行方不明事故の推移.....2  
参考② 行方不明の解消に向けた取組の歩み.....2
2. 用語の定義.....3
3. 見守り・SOS体制づくりの基本指針と全体構造.....4
4. 基本パッケージの構成と活かし方.....7

##### II. 見守り・SOS体制づくりの一步一步

1. まずは基本方針・全体構造をもとに見直そう.....9
2. 基盤づくりをしっかりと.....11
  - 1) 地域の本人・家族の声を聴く.....13
  - 2) 統計の整備・実態の把握と共有.....15
  - 3) 事務局と推進コアチームを共有.....17
  - 4) ビジョン・共通方針の共有.....19
  - 5) 言葉・用語の見直しと配慮.....21
  - 6) アクションミーティング：立場を超えて話し合い一緒にできることを考える.....23
  - 7) 仲間を増やす：領域や世代を超えて.....25
3. 見守り・SOS体制づくりのアクションの展開.....27
  - 1) 広報・啓発：みんなが自分事として考え一緒に考える意識を高める.....29
  - 2) 事前登録システム：本人・家族が備える.....31
  - 3) 関係支援ネットワーク：「その一人」を地域で支え合う.....33
  - 4) 支援者登録システム：地域のみんなが見守り手になる.....35
  - 5) 地域支援ネットワーク：地域の多資源のつながりを育てる.....37
  - 6) sosネットワーク：sos時にみんなで動くsosネットワーク.....39
  - 7) 模擬訓練：備えて機動力を高める.....41
  - 8) アフターサポートシステム：  
行方不明発生後の本人・家族のダメージの緩和と再発防止.....43

